

令和6年9月定例会

## 100年に1度のまちづくりの意義と今後について

1915年、初めて知立市(当時知立町)に鉄道駅が開設された。その後、1923年現在の知立駅ができ駅を中心とした区画整理、まちづくりが大きく進み現在に至る。現在知立駅を中心とした整備事業が再び行われハード的には完成に近づいている。



本来の目的の賑わいと魅力ある街づくりはこれから。居住人口の確保昼間人口増は必須。

今こそ100年先を想定したまちづくりビジョンに、責任と夢をもって議会も、行政も、市民協働でチャレンジしなくてはならない。

知立駅付近連続立体交差事業、知立駅前区画整理事業、街路事業などで総事業費

1000億円以上の大規模事業。知立駅を単なる通過都駅にしてはならない。

知立駅を目的駅として企業、商店が発展し居住人口、交流人口、関係人口を確保と  
税収増につなげ輝く街知立を実現

しなくてはならない。



令和6年12月定例会

緑り豊かな、街の環境づくり、人が集う安らぎのまちづくり。

当市の緑化は「緑の基本計画」に沿って進められている。知立駅周辺整備事業の中で駅周辺のグリーンインフラ整備を進め、安らぎのある緑豊かな街まちづくりの推進を。

農地の適正な維持管理により、生活な中に健全で緑知の維持、育成を。



総合運動公園設置について早急に計画策定を。スポーツ振興、防災の拠点としてまた、緑のシンボルエリアとしても求められる。

## 生涯学習を中心市街地の街づくりの基軸に



市民活動、文化振興、情報発信の拠点としてまた、多様な主体の情報交換やコミュニケーションの場として、関周辺の整備事業エリア内に生涯学習センターの設置を。

中心市街地への動員、昼間人口確保の第一歩となる。

※ネーミングやロゴについてはビジョンや機能に合わせ訴求力のあるデザインが不可欠。